

宮崎海岸侵食対策(案)に関する
第12回市民談義所での質問や意見への回答・対応・検討状況

国土交通省・宮崎県
平成23年7月17日

第12回市民談義所での意見に対する事業主体及び専門家の対応 - 1 -

市民（第12回市民談義所意見）

①できるだけ早期に安全を確保してほしい
（安全第一）

- 利用も環境も大事だが、安全を確保することを第一に考えて欲しい
- 現実として砂浜がなくなっている
- スピード感を第1に対策を実施してほしい

②効果・影響を確認してほしい。モニタリング調査の方法、判断方法はきちんと検討してほしい

- 対策案は効果があるのか
- 突堤を作ると侵食が進むのではないか
- 突堤を伸ばす判断をするために一定の期間のモニタリングが必要ではないか

③漁業等利用への影響も十分に考慮してほしい

- 漁業に支障のない対策としてほしい

④対策の津波への効果・影響を知りたい

- 突堤により津波被害が拡大しないか
- 東日本大震災の被害からの教訓は

事業主体

I 高潮・高波等から背後地を守るために必要な砂浜（浜幅50m）が確保できる対策案を提示。

II 侵食が進行しており、早期に安全を確保する必要があることから、波浪観測、地形測量、環境調査を実施し、毎年その結果を確認した上で、徐々に整備を進める案を提示。

III 安全を確保しつつ、環境、利用、漁業、景観等へ配慮した対策案を提示。

IV 東日本大震災の被災地の事例を収集し、対策の実施による津波の遡上等への悪影響が見られないことを提示。

技術分科会が専門的な立場から助言

市民連携コーディネータが中立、公正な立場からチェック

専門家から技術的な助言を求める課題Ⅰ

- 2 -

～ 高潮・高波等から背後地を守るために必要な砂浜(浜幅50m)が確保できる対策となっているか～

突堤の効果事例



専門家から技術的な助言を求める課題Ⅱ

～対策の効果・影響を確認・判断するための調査方法、整備の進め方～

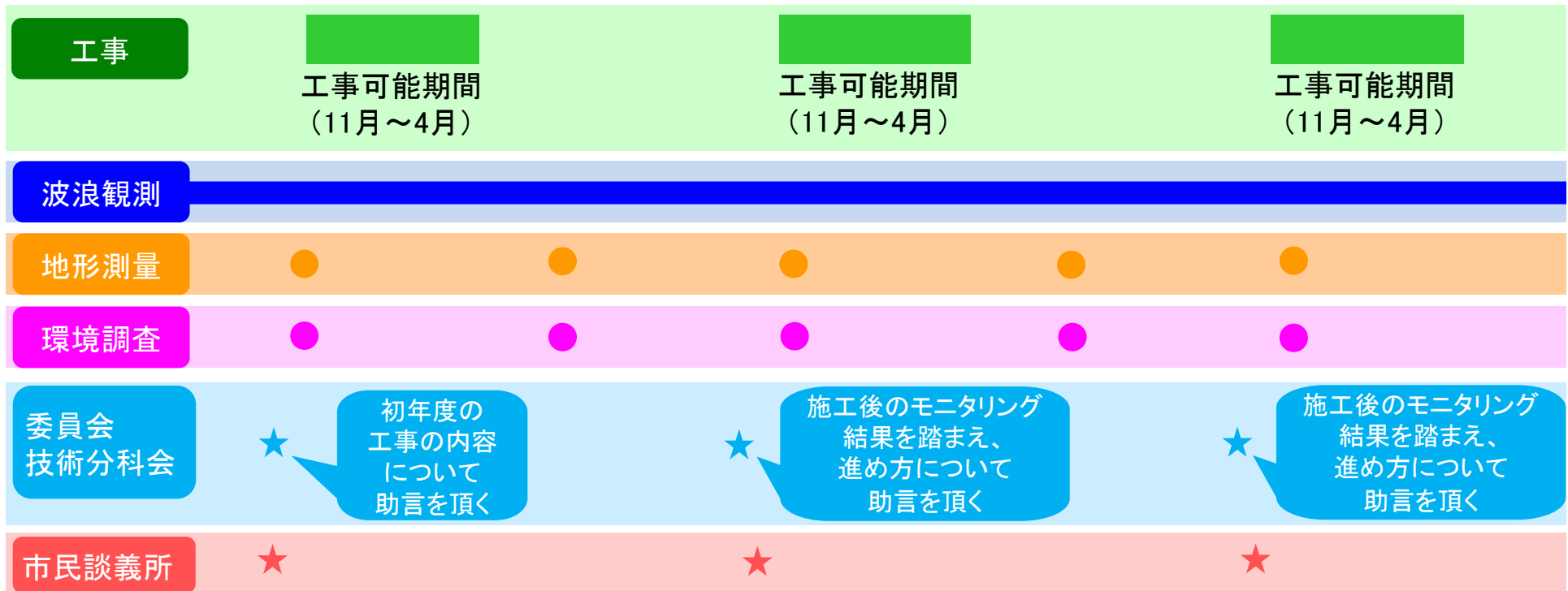
対策案決定後の整備

1年目

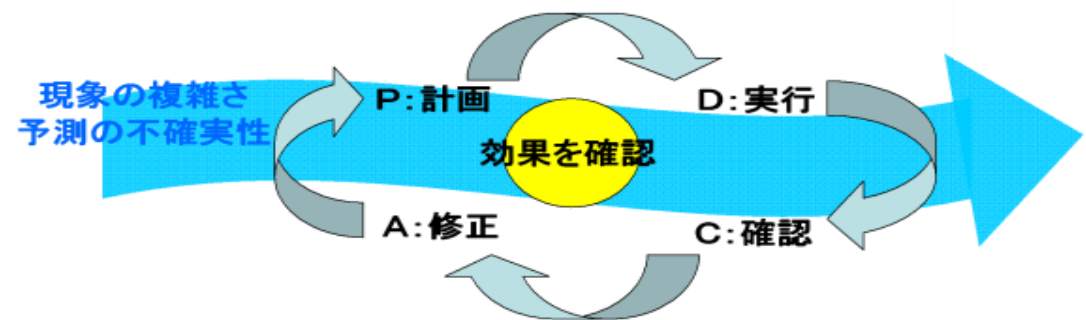
2年目

3年目

4年目



モニタリング調査を実施し、毎年、その結果を確認した上で、徐々に整備を進めていく。



専門家から技術的な助言を求める課題Ⅲ

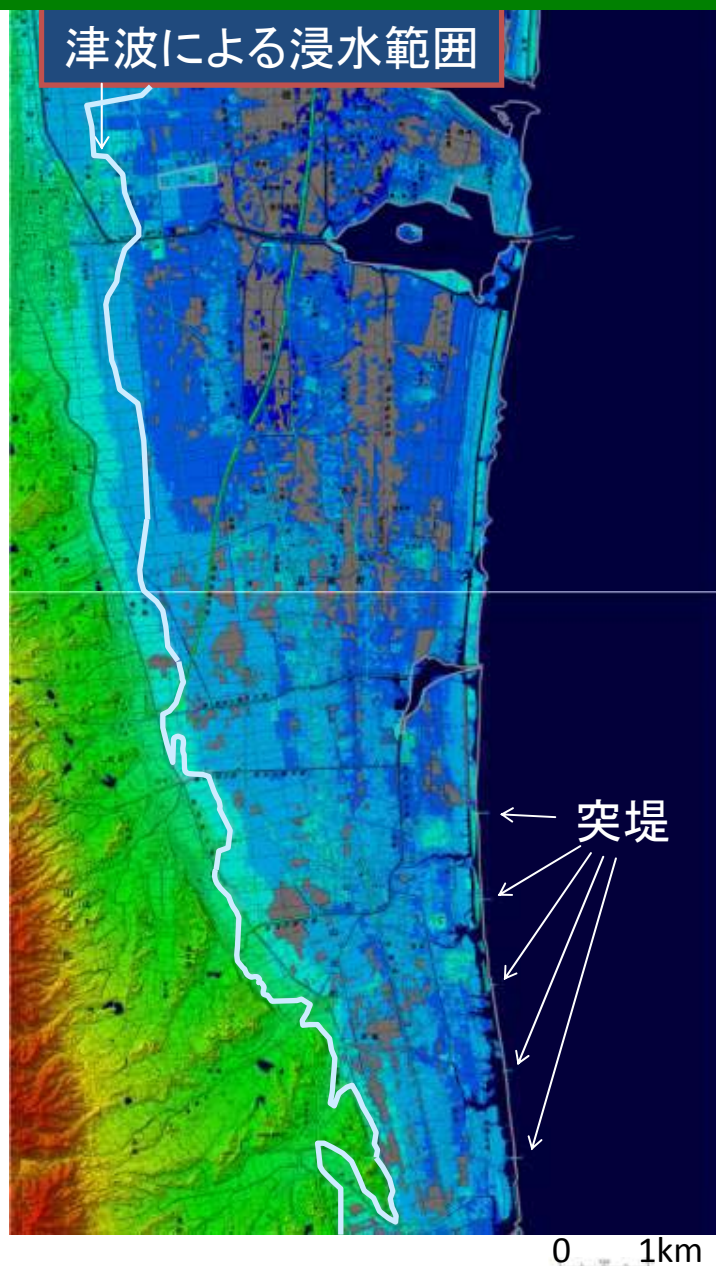
- 4 -

～安全を確保しつつ、環境、利用、漁業、景観等へ配慮された案となっているか～

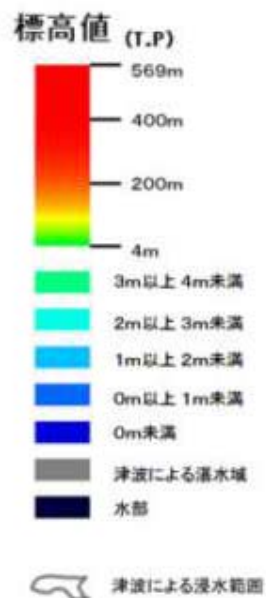
安全	<ul style="list-style-type: none">○高潮、高波等から背後地を守るために以下のような計画とした。<ul style="list-style-type: none">・必要な砂浜(浜幅50m)を確保する。・自然堤防の役割を果たしている砂丘を保全する。
環境	<ul style="list-style-type: none">○砂浜の確保により、区域ごとの環境特性に配慮しつつ、背後地の安全性を確保する計画としている。○突堤の数、規模を減らし、現在の環境をできる限り保全する計画としている。○浜崖の後退を防止するためのかくし護岸は養浜で覆い、アカウミガメの産卵等にも配慮した計画としている。
利用	<ul style="list-style-type: none">○砂浜の確保により、これまでの利用特性を勘案しつつ、背後地の安全性を確保する計画としている。○突堤の数、規模を減らし、現在の利用状況を出来るだけ維持出来るような計画としている。
漁業	<ul style="list-style-type: none">○突堤の数、規模を減らし、現在の操業範囲を出来るだけ維持出来るような計画としている。○構造物の流出などの漁業への悪影響がなるべく出ないような材料を検討する(今後の課題)。
景観	<ul style="list-style-type: none">○砂浜の確保により、これまでの砂浜景観を維持しつつ、背後地の安全性を確保する計画としている。○突堤の数、規模を減らし、現在の景観を出来るだけ残した計画している。○浜崖の後退を防止するためのかくし護岸は養浜で覆い、自然の砂浜と一体に見せる計画としている。○宮崎海岸の景観をできるだけ損なわないような構造物形状・材料を検討する(今後の課題)。

専門家から技術的な助言を求める課題Ⅳ

～対策の実施による、津波の遡上等への悪影響の可能性の有無～



- ・ 宮城県仙台湾沿岸では、海岸堤防よりも高い津波が来襲し、内陸まで広い範囲で浸水した。
- ・ 津波による浸水範囲は、突堤の有無よりも陸地の高さ(標高)に左右されている。



使用データ

標高値データ(津波による湛水域を含む)は、平成23年3月28日～4月1日に東北地方整備局が航空レーザ測量で計測したデータを使用して国土地理院が作成しました。
津波による浸水範囲は、平成23年3月12・13日及び4月1日に国土地理院が撮影した空中写真を使用しています。

専門家から技術的な助言を求める課題Ⅳ

～対策の実施による、津波の遡上等への悪影響の可能性の有無～

～茨城県鹿島灘の場合～

茨城県鹿島灘沿岸の突堤(ヘッドランド)が約1km間隔で設置されている下図の範囲では、津波による浸水範囲は、突堤の有無で変化はない(突堤による影響は見られない)。

